

あなたのケアの  
選択肢を広げる、  
漢方医学の  
新知識

体質・体全体のバランスを  
見抜いて心身のケアにつなげる

年中、手足が  
冷えてつらい！

# 漢方的 フィジカル アセスメント

ずっと治らない  
便秘…

患者さんだけでなく、  
自分にも役立つ漢方知識

医療機関で調べたけれど、原因が  
はっきりしない腹部の不調や痛み……。  
慢性的な腹部の悩みは、患者さんだけ  
でなく皆さん自身やまわりの方々が  
もっていることも多いと思います。

今回は、「なかなか解決できない慢  
性的な腹部の不調」を、漢方医学の視  
点から、体質や体全体のバランスを  
“フィジカル”にアセスメントしていく方  
法をお伝えします。

## CONTENTS

- 41 はじめに
- 42 知っておきたい漢方医学のこと
  - 43 「漢方を使うタイミング」とは？
  - 44 漢方診察(四診)と西洋診察の違い
  - 48 体質の把握に必要な「陰陽」「虚実」「気血水」
- 49 “漢方的な視点でみる診療”の基本と方法
  - 49 漢方診察(望診・問診)の実際 ～「冷え」からみる漢方薬の選択～
  - 53 “漢方的フィジカルアセスメント”では何がわかる？
  - 53 腹部診察(腹診)の実際
- 58 漢方的フィジカルアセスメントの実践
  - 58 症例① 20歳代半ば、女性
  - 60 症例② 20歳代後半、女性
  - 64 症例③ 40歳代、女性
  - 68 症例④ 10歳代、男性
- 70 最後に



【執筆】**中野弘康** なかの・ひろやす  
医療法人社団恵生会竹山病院 内科

2008年に東邦大学卒業。大船中央病院にて臨床研修、その後、聖マリアンナ医科大学病院、川崎市立多摩病院、大船中央病院を経て現職。日本内科学会総合内科専門医。「おなかのトラブル」を抱える患者さんを診療するのが大好き。

## はじめに

皆さん、こんにちは。2026年1月号で、特集「急性腹症の考え方と実践フィジカル」を担当した内科医の中野弘康です。今回は、“漢方的なフィジカルアセスメント”についてお話しさせていただきます。1月号でお話した急性腹症のフィジカル(このフィジカルを「西洋フィジカル」と表現しましょう)が“病気の診断”に役立つとするならば、この「漢方的フィジカル」は患者さんの体質を把握し、つらい症状をやわらげるための治療の一助となります。

例えば、皆さんにはこんな経験がありませんか？

「生理痛がつらくて婦人科を受診しているが、よくならない」

「小さいころからずっとおなかの調子を崩している。でも、病院で検査をしてもたいした異常はなく、機能性胃腸症と言われた」

「寒くなると体が痛くなる。MRI検査などを受けたが、異常はない」

いずれも病院を受診して検査はしたけれど、検査でキャッチできる異常はなかったという方々ばかりです。こんな方々には、今回ご紹介する「漢方的フィジカルアセスメント」を行ってみると、治療の糸口が見つかるかもしれません。

## 本特集では…

“体質だから仕方がない”であきらめていた**腹部愁訴**(下痢、便秘、生理痛など)に対して

“漢方的フィジカルアセスメント”の視点を身に付けると… ✨👁️👁️

体質・体全体のバランスをみながら、改善へ向けて、**新たなアプローチ**ができる

「急性腹症」についてはこちらで解説！

エキスパートナース1月号 特集  
「急性腹症の考え方と実践フィジカル」

執筆：中野弘康

